（総会資料）

第１号議案　令和４年度事業報告

１.令和４年度通常総会報告

令和４年の総会は予定通り開催され、以下の通り承認されました。

第 17 回通常総会　　令和４年６月 18 日(土)　　みんなのおうち「ゆいゆい」

出席者　 170 名　　（本人出席　１２名　　委任状出席　158 名）　　会員総数 292 名

審議事項

第１号議案　令和３年度事業報告について承認の件

第２号議案　令和３年度収支決算報告書及び監査報告について承認の件

第３号議案　令和４年度事業計画について（案）承認の件

第４号議案　令和４年度収支予算について（案）承認の件

２.令和４年度総括

１．事業遂行と団体の基盤作り

(1) 保育事業の充実と見直し

・利用者ニーズに対応しつつ、安心安全な保育のための環境整備を進める。コロナ助成を受けて、ひまわりの保育室をリニューアル、あいあいも明るい色のカーペットを敷き、より清潔で家庭的な保育環境となる。

・支援者の働き方改革を進める（労務整備を中心に、資格手当や有給休暇などの見直しを行った）団体内の働き方の格差を最小限に、働く職員も大事にされる体制作りの為、社労士に入っていただき、定期的に話し合いを行い、改めて団体の理念などを振り返る時間を持った。

・研修の受講を団体として推奨し人材育成を進めた結果、３名が新たに保育士資格を取得した。

・団体全体で保育の在り方を考える「保育プロジェクト」を発足し、ウイズアイの保育園構想を話し合えた。日曜・祝日・年末（年始３日のみ休み）に一時保育を利用できる施設はなく、主に仕事をしているご家庭のお子さんが利用している。預かるお子さんの年齢も０歳～小学３年生ぐらいと幅広く、保育時間も早朝～翌日までと長い。常勤職が増え平日日中の一時保育の体制は安定したが、日曜・祝日に従事するスタッフの負担は大きく、緊急 24 時間の一時保育の体制作りが大きな課題である。このようなニーズを受け入れられる多機能を持つ認可保育園（0 歳～5 歳児）の運営を目指したい。

・市内学童保育の指定管理入札に参加したがかなわず。今後、如何に安定した基盤を持って事業を継続していくか、検討したい。

・コミュニティ・スクール学校運営協議会への協力、他団体との連携を進めるために ６ 小をメインに出向き、学校の中で、不登校の居場所つくりや親の会の開催に繋がる一歩となった。

(2)既存事業

・コロナ禍が続く中、一時保育やつどいの広場事業を安定して行うことができた。
基盤を強化するための財源の確保と人材確保に向け定期的に研修やミーテイングを重ね、
メンバーのチーム力が向上した。シフトなどもみんなで協力してカバーしあえた。

・アンケートを形骸化せず、成果と課題をチームで検討していく為の時間がとれなかったことは、今後の課題としたい。マンネリ化せず、利用者の声から新たな事業を興してきたことにより団体が発展して今がある。常に利用者からの声を大事にしたい。

【委託事業】いきいき子育て支援事業・つどいの広場事業・養育支援ヘルパー事業
赤ちゃんのカプロジェクト事業
【補助事業】緊急一時保育事業・対象児童見守り強化事業・子どもの食の確保

(3)小規模保育園の運営強化

・令和４年度、小規模保育園に第三者評価を受け、サービスの内容、組織のマネジメント力等の評価を行うことができた。
・定員に満たない場合、余裕活用型の一時預かり事業に新たに取り組み、地域の多様なニーズに対応。

2. ＩＣＴ（情報通信技術）環境整備と活用

・つどいのひろば拠点および小規模保育園におけるインターネット環境を整備し、メール相談なども受けられるようになり、事務作業の効率化も図れた。
・ICT の事業活用（連絡、報告、赤ちゃんのチカラプロジェクト中継など、コロナ禍でもスムーズな対応ができた）
・小規模保育園ではＩＣＴシステムを新たに導入。保護者との新たな連絡手段等に活用。
・労務管理や日々の事務作業等、ICT 化によって可能な更なる効率化を進める。

3. 助成金事業に全力で取り組む

清瀬市支援対象児童等見守り強化事業は、私達の中では、貧困・養育困難・制度の狭間の人達を救う根幹の事業である。柔軟に、緩やかに、暖かく、長期的な関わりが求められるケースが多く、支援の有様を問われる事業でもある。

養育支援ヘルパー事業委託と同時期に、見守り強化事業を採択していただき、3 年目に入った。この二つの事業は、当団体が細々かろうじて何とか守ってきた独自の事業から、団体を支える柱として成長・確立した。同時に、子ども家庭支援センターとの連携が強化され、共にケースを共有し伴走しながら支援の形がつくれたという手ごたえを感じた。

民間である当団体は、もっと自由に、柔軟に、利用者のニーズに添ったサービスを生み出していかなければ、多様なニーズに応えられない。支援のメニューをどう増やしていけるかを考え続けた。

如何に他の専門職や同じ目的をもつ連携団体と出会えるか、他団体と繋がれるか・・目の前のケースを大切に関わり続けるエネルギーを維持しつつ、自分達の心身のバランスを保つこと、そして組織としての機能・チーム力を育てていく人材の育成にも心を砕いた。

定期的な家庭訪問は、支援の在り方を考えさせられると共に、生活の場、その人らしさを一番安心して出せる場であり、家族丸ごと支援を実感できた。送迎や食事の提供を無料で提供し、まさに実家の役割を果たせたと感じた。

親子で泊まれる母子シェルターは、どんな事があっても、私達はあなた達を、母子を守るのだという強い思いを言語化せずに伝えていくことだと思いながら関わり、大きな岐路にたった母子が身体と心を休め、新たな道を歩みだす一歩を応援できた。

１）受託事業

（１）小規模保育園　あいあいちびっこルーム

◎第三者評価を実施

令和４年７月、開園 ５年半をむかえ、初めて第三者評価を実施、おおむね高評価を頂いた。
これは職員の日々の努力の成果であり、評価に向けて書類や保育内容の見直し、様々な整備が進み、これを可能にする職員体制によるところも大きかった。

◎多様化する園児への対応

保育では、様々な個性を持ったお子さんのお預かりや保護者の(育児疲れ)ケアのため他機関との連携による取り組みや、外国籍のご家族に対する対応等も行った。
また、長時間保育のお子さんが増え、そんな中、子どもたちの生活リズムをどう整えていくか、子ども同士の関係性をどう育てていったらよいのか、長時間 安全にお預りするために、どのようにしていったらよいか 職員が話し合い、工夫し実践を重ねた。
このように保護者、園児ひとり一人にきめ細やかに対応し、高評価を得たが、職員の負担は増え、人員の補充、確実な休憩場所や時間の確保が、課題の一つであり、改善していきたい。

◎保護者支援の充実

保護者支援として、空き定員枠での一時保育の開始
手ぶら登園を１１月から、導入している
コロナ禍での行事の見直しで、親子じゃが芋掘りを行ったが、大勢の参加があり、土曜日実施は負担ではないかと考えていた園と、保護者のニーズに違いがみられた。

◎ICT システムを導入

１月より、保護者連絡と保育者の仕事の効率化を含む　アプリ「コドモン」の運用開始。
他、情報発信として、ホームページに保育の写真を掲載しはじめている。

◎選ばれる園を目指して

令和４年度に引き続き上記の取り組みを継続していく。
園の情報発信については、保護者に対しては園の様子がより見えることにより安心感を、園外の方に対しては園の魅力を知っていただけるよう、インスタグラムを現在準備中。
地域の子育て支援の役割を広げてゆくことは、求められている園はどういう姿なのか、保護者のニーズにも積極的に応えてゆくために、令和４年度に導入した ICT システムを活用してアンケートを行い、実行に向けて検討実施してゆきたい。
今後も園を取り巻く様々な状況をしっかりと見つめ、必要と思われる新たな取り組みを積極的に実施していきたいと考えている。

あいあいちびっこルーム　北村

ホッとひといき

～空き定員枠での一時保育を利用されたママより～

私は、第二子妊娠中に、初めて一時保育のちびっこルームを利用しました。
悪阻で上の子（娘）のお世話ができない中、ちびっこルームを利用できたのは、本当に助かりました。
先生方にもとても良くしていただき、娘も保育園のお友達や先生方と楽しく遊べていて、安心して利用する事ができました。
ただ、一時保育の定員数の枠に対して、利用したい人の数の方が圧倒的に多く、利用したいけど、利用できない事もありました。今後も利用したいので、もう少し定員数の枠が増えたら嬉しいです。
また何かあった時に、預けられるのはとても助かります。

（２）養育支援ヘルパー派遣事業

《実績》

・コーディネート　新規 26 件　更新 17 件
　利用なし　8 件
・訪問回数　251 回（前年比 226%）
・訪問時間　738 時間（前年比 244%　うち 2.3 月の利用が 3 割を占める。）
・依頼理由は、産前産後が大多数。
　その中でも、産後うつなどの精神を病んだ方、体調不良、不安を訴える方が目立った。
　他病気や障害、多胎児等

◎成果

・今日、明日という緊急依頼にも対応した。
・送迎をつけることで、一時預かりや講座等への参加が可能になり、孤独孤立の防止と地域との繋がりを持たせることができた。
・養育支援ヘルパーの利用だけでは足りない利用者には、他の支援に繋げる支援ができた。
・多胎児への親支援、外出や受診等による病院へのヘルパーの同行で、足りない手を補い、不安や緊張に寄り添い、安心感を得てもらえることができた。
・養育支援ヘルパーの利用はなくても、コーディネートした全ての方を、各種支援に繋げている。
（一時預かり、産後ケア、ひろば、講座、見守り、ヤングケアラー、ホームビジター、ファミリーサポート、移動支援等）
・更新により長期にわたる利用者へは、複数のヘルパーで対応したケースが増えた。
・研修、ケース検討を行い、ヘルパーの増員ができた。

◎課題

・年度末に依頼が集中し、ヘルパーのやりくりができず、お断りするケースが出てしまった。
・傾聴していると、ママの気持ちが乗り移ってしまうことがあり、ヘルパーへのメンタルトレーニングの必要性を感じた。

◎今年度の目標

・訪問率　１００％
・養育困難家庭へは特に手厚く、他支援への積極的なアプローチも心がけていきたい。

ホッとひといき～スタッフより　　【養育支援】保育のみでの訪問

自宅に訪問しての保育はとても難しく感じました。
その家庭のルールもあると思いますし、ママの思考もあると思うので。
一時保育の時のように 1 日の流れが決まっているわけではないので、依頼があった時間を子供とどう過ごすか。
毎回今日は何したいかな？機嫌はどうかな？など訪問時（初訪問の時は特に）緊張がありました。
ただ訪問することでその家庭の状況や問題点やお子さんの様子、ママの様子がとてもよくわかると思うのでそういう点に注意をしながら依頼があれば訪問していきたいと思います。

（3）つどいの広場事業

	実施回数	参加者数			従事人数	相談件数
		親	子	総数		
下宿つどいのひろば	303	2976	3414	6390	668	1448
（下宿　赤ちゃんひろば）	46	316	315	631	98	—
（パパもいっしょに）	9	28	36	64	—	—
（with 多胎児）	20	1	2	3	—	—
（あおぞらひろば）	43	208	261	469	82	—
（工作）	72	—	—	125 名	—	—
（助産師の専門相談）	8	—	—	43 件	8	—
（食育相談）	6	—	—	18 件	6	—
（身体の相談）	12	—	—	24 件	12	—
野塩つどいのひろば	303	4353	5628	9981	741	2155
（野塩　赤ちゃんひろば）	42	381	385	766	99	—
（よちよち親子遊び）	21	145	144	289	59	—
（あおぞらひろば）	15	80	91	171	30	—
（工作）	101	—	—	297 名	—	—
（食育相談）	12	—	—	48 件	12	—
（身体の相談）	12	—	—	32 件	12	—
梅園（あいあい）つどいのひろば	57	407	492	899	188	311
（あいあい　赤ちゃんひろば）	25	113	116	229	75	—
（絵本の日）	12	57	57	114	20	—
（オンラインつどい）	0	0	0	0	0	—
計	**663**	**7736**	**9534**	**17270**	**2110**	**3914**

	4 年度成果	次年度への課題	今後の目標
下宿つどいの ひろば	・コロナ禍地域の利を生かして推し進めた[青空ひろば]は、赤ちゃんひろばから繋がる親子が目に見えて増えた。 ・お家に籠りがちな生活からの親の育児疲労や子どもの発達不安を一時保育に繋げる事で多角的に見守りが出来た。 ・助産師の専門相談日をもうけ敷居の低い場所を創ることでより安心感と信頼が築かれた。 【下宿あおぞら広場】 ・通年で曜日を固定したことで参加者が増えてきた。特に赤ちゃん広場を経た参加者が増えたことで、参加者同士の繋がりの輪が継続し、親交が深まった。 ・野塩と下宿合同で秋に金山緑地公園で遠足を開催し、好評を得た。自然を守る会の方々のご協力もあり、植物や昆虫について関心を深めることが出来た。	・近所の親子が、つどいの存在すら知らない事も多く、より広く認知される工夫が必要。 ・室内と野外のスタッフ数の確保が難しく、昨年度は室内は一名で回した点。 ・夏場の猛暑日の開催について、明確な開催基準を設けていなかった点。	・近所の親子が、つどいの存在すら知らない事も多く、より広く認知される工夫が必要。 ・満 3 歳入園やプレプレが充実している中、参加するこども達が低年齢化している(1～2 歳)ので、年齢に沿った遊びの提案や安全対策をしていきたい。
野塩つどいの ひろば	・野塩地域市民センターが改修工事の間お世話になったむらさき会の方々をお招きし、三味線や尺八の和楽器を披露して頂き、世代間交流を行った。 ・つどいのひろばのチラシを作り、健診セットに入れて頂いた。 ・市内の中学生を職場体験として受け入れた。 ・野塩地域市民センターで再開し、0 歳の赤ちゃんの参加が増えた。ママ達を繋ぐ事で、地域内でのママ達の交流の場となり、子育ての不安や心配事を話したり、共有することにより、ママ達の育児不安を和らげる事ができた。	・部屋が狭く、せっかく来てくださったのに、コロナ禍で人数制限していた為、お断りする事もあった。 ・パパの参加も増え、授乳スペースの確保が難しい。 ・部屋が狭い為、プライベートな話しがしづらい。	・継続して世代間交流に取り組みたい。 ・コロナ禍で中止にしていた、利用者アンケートや、利用者懇談会を開催し、利用者の意見を聞き、より良いつどいにしていきたい。

	・赤ちゃんひろばを卒業したが、まだ青空ひろばに参加出来ない親子の為に「よちよち親子遊び」を開催した。月 2 回、予約不要で、つどいの赤ちゃんひろば担当のアドバイザーが入るので、専門性が活かされた内容となっており、とても好評である。 ・青空ひろばに参加出来ない年齢のお子さんの為に、その時間はつどいの部屋も開室し、青空、つどいと同時開室した。 【野塩あおぞら広場】 ・より多くの方に周知され、目的の一つである、歩くこと・走り回ることなど、十分に楽しむ事ができ、一年を通してお子さん達の成長がみられた。	・散歩・公園遊び共に、駅近・住宅街という事もあり、遊び場の選択肢が少ない。 ・草花・生き物など自然物に触れる場が少ない。	・下宿・野塩合同遠足を開催し、秋の自然を楽しむ事ができた。今後も合同企画を考えていきたい。
梅園 (あいあい) ひろば	・他のつどいのひろばが休館している月曜に開催する為、行き場のなかった親子に遊ぶ場を提供することが出来た。 ・生活、育児に困難さを抱えているご家庭に一時保育へ繋げる活動が出来た。 ・木の玩具、手づくり玩具が多く、利用者への玩具の遊び方等意識を変える事が出来た。 ・夏場には、庭のスペースにテントを張りタライに入れた水での水遊びは、お子さんの初めての水遊びとなる事が多く好評だった。	・開催日の少なさや、立地により知名度が他のつどいよりも低いため、利用者が限られ少ない。 ・雨天時は駐車場が少ない為、更に利用者が少なくなる。	・コロナの流行で中止していた散歩を季節ごとのイベントとして再開させたい。 ・知名度を上げる活動(通信、SNS 活用)をしていきたい。

赤ちゃんひろば

	４年度成果	次年度への課題	今後の目標
野塩赤ちゃんひろば	・コロナ罹患について、オープンに話せるようになり、お子さんや家族が罹患した際の体験を共有できた。 ・パパとの関係や子育ての悩みなど、ママ同士が話しやすい場を提供できた。 ・栄養士による食の相談、理学療法士によるからだの相談を実施。ネット等、情報が多過ぎることで悩まれるママたちが多いが、専門相談があることで、情報の整理ができた。 ・手遊び、わらべ唄遊びを伝えることで、ママたちが『赤ちゃんとどのように遊んだらよいか分からないので助かる』との声あり。 『絵本の読み聞かせ』 ・絵本の時間になると集中して聞いてくれる子が多く、赤ちゃんでも絵本に興味をもつことが保護者にも伝わっていた。 ・赤ちゃん絵本の選び方が参考になると好評であった。 ・「主食」の絵本、「おやつ」の絵本の考え方をお話した際は、良作を読まなければいけないプレッシャーを緩和し、読み聞かせを柔軟に家庭で取り組めると、つどいスタッフや保護者から感想があった。	・今後も、ママたちが安心して楽しくおしゃべりができ、少しでも悩みを解消して子育てに自信が持てるようなひろばを目指す。 ・解説など、情報をお伝えして時間をとってしまうので、手遊びやわらべうたを最初と最後だけやって終わる会もある。 ・今年度は性教育と合わせて絵本の時間になるので、解説は前半に留め、後半はふれあいの時間を多くとっていく。	・常連さんの参加が多いので、初めて参加するママが入りやすい場を提供していく 対象：０歳の赤ちゃんと保護者 目的： ０歳から絵本に親しむことができるよう集団での読み聞かせ。 また、保護者に対して絵本を読むコツをお伝えし、家庭でも読みやすい絵本の紹介をする。
梅園（あいあい）赤ちゃんひろば	・一時保育登録の見学への案内がスムーズである。 ・赤ちゃん広場で唯一の午後開催の為、午睡や離乳食の時間と重なりつつも参加があった。 ・毎回ある絵本ボランティアの方による読み聞かせが好評だった。 ・参加者の様子に合わせ、ストレ	・ママ同士のグループ化されたところへ初めての方が入りづらい。そのため話しやすく、リラックスできる環境作りや声がけなどの配慮をする。 ・少人数の場合の内容を再考する。参加者からやりたい事や聞きたいことを吸い上げる機会を作る。	

	ス発散や身体のケア、遊びなど多様なニーズに応え、利用者同士を繋いだ。		
ひまわり赤ちゃんひろば	・近隣の参加者が増え、異なる月齢の赤ちゃん同士のやり取りやママ同士の関係も深まった。 ・わらべうたとストレッチを毎回行うことで、在宅時間の充実や、身体のケアが出来た。ここで身体を動かすことを日課にしている参加者もいた。 ・赤ちゃんが広いマットの上で安全に沢山寝返りやはいはいすることができ、保護者が発達の様子を把握しやすい。 ・ウイズアイひまわり事務所の一時保育の案内や他の保育付き講座、新設された０歳児のプレイルームをスムーズに案内できた。	・児童センターころぽっくるにて同じ時間に同月例対象の赤ちゃん向け講座があるため、対象年齢や講座の内容を考慮する。 ・さらなる周知のため一時保育利用の方や、他講座参加の下の子へ赤ちゃん広場へ案内する。	・継続的にひまわり赤ちゃん広場の周知をする。 ・精神的にも安心安全な場であるよう配慮する。(ストレッチの際はドアの窓に布など)
よちよち親子遊び in 野塩	・赤ちゃんが歩き始め、『赤ちゃん広場』を卒業後『親子遊びの会』(対象１歳半～)に行けるまでの期間、親子で過ごせる会がほしいとの声から初開催に繋がった。親子で遊ぶ＆みんなで遊ぶをテーマに、毎回、内容を変えて実施。集団で楽しめる遊び＆自宅でもできる親子遊びを意識して企画し、好評だった。 ・歩き始めたからこそできる身体を使った遊びや、音楽や道具を活動内容に取り入れることができた。参加者の反応を見ながら毎回創意工夫を行った。 ・子ども同士のやり取りを親同士が見守ることができた。例として、子どもができたらすぐに褒めてあげよう、安全には考慮しつつ子どものやりたい気持ちを尊重しよう、といった事で、参加者同士が共通の意識を持つ事ができた	・参加できる期間が限られているため、対象月齢を見直す。 親子遊びを開催しているひまわりまで行きづらい親子には対象月齢の猶予を持たせるなど。	・更なる広報をする。つどいの広場、赤ちゃん広場での口コミの広報が効果的である。 ・参加者へのリピートを促すために、内容を更に熟考する。 ・妊婦さんの参加も多く、負担にならないように配慮する。

市民活動センター赤ちゃんひろば

	４年度成果	次年度への課題	今後の目標
絵本ひろば	・予約不要にしたことで参加者が増えた。 ・保育者が入るようになったので、ママも講師も若干のゆとりが生まれた。 ・親同士の交流の時間も取り、賑やかな話し合いの場が取れた。	・参加者が増えるのは嬉しい反面、ゆったりとした読み聞かせができない。 ・交流タイムの話題に悩む。	・ゆったりとした読み聞かせができるよう、工夫していきたい。 ・ママ向け絵本を読んでいきたい。
ベビーマッサージ	コロナの状況がまだまだ不安の中の一年だったが、少ない機会の外出の場として活用してくれた 家の中にいる時間が多くなっていたからこそ、家の中でできるコミュニケーションであるマッサージを活用くださったのではないかと思う	ご参加の人数がその月により波があり、予測ができないことも多かった。	本来、ベビーマッサージはコミュニケーションなので、赤ちゃんにとってはお母さんの顔や表情を見ながら行っていくもの。運営時も、お母さんの表情をみて開催しているので、マッサージ中だけでも、マスクを外して開催できると良い。

ホッとひといき～スタッフより

予約制をなくしたことでママ達も参加しやすくなったのか参加していただける人数が増えました。
しかし部屋の広さに限りがある為人数制限をせざるを得ず、申し訳ない思いをする事もありました。
参加者が増える事でお子さんの月齢もバラバラで低月齢の子もいたり活発に動き回る子もいたりで座る位置を分けたり間に入るなどして工夫をする必要があります。
ママ達の交流の場でもあり最近の出来事やこんな時どうしてますか？など先輩ママや同じ月齢頃のママ達の意見交換ができる場でもあるのでみんなが参加しやすい場所であるようにできればと思います。

(4) 清瀬市いきいき子育て支援事業

事業名	実施回数	参加者数			従事者数			
		子	親	総数	講師/FA	会場係	保育	総数
新米ママと赤ちゃん会	44	283	280	563	46	37	121	204
ベビーマッサージ	9	59	61	120	12	1	6	19
パパママベビーマッサージ	9	43	62	105	14	3	0	17
双子三つ子の会	12	82	49	131	12	12	48	72
母乳相談（おっぱいママ）	11	9	9	18	11	0	0	11
NP 講座	12	77	78	155	24	12	71	107
育み講座	8	35	37	72	8	8	28	44
CSP 連続講座	9	48	75	123	18	15	23	56
CSP 体験	1	3	4	7	1	1	3	5
親子遊びの会	18	115	110	225	19	40	6	65
すくすく親子教室	19	202	158	360	22	41	34	97
すくすくクッキング	3	22	32	54	6	3	16	25
防災講座	3	24	27	51	3	7	8	18
身体の発達講座	3	31	33	64	3	7	7	17
救急講座	2	44	48	92	3	10	12	25
絵本講座	1	10	10	20	1	3	8	12
事業計	**164**	**1087**	**1073**	**2160**	**203**	**200**	**391**	**794**

	4 年度成果	次年度への課題	今後の目標
新米ママと赤ちゃんの会	12 クール 48 回の実施。 完成されたプログラム実施と、参加者に合った臨機応変な対応によって、地域の横の繋がりをゆるやかに促した。	出産直後の広報。 交通手段がない、または外出の不安が高い利用者への支援の確立。 ファシリテーター、保育者の育成。	FA および保育者育成のための養成講座開催。 見学・実施・FB の流れを確立する。他市、他地域からの講座開催希望に対して普及に努めるとともに、日本社会事業大学宇野研究室の研究協力を進める。
パパママベビーマッサージ	・会場を梅園と下宿で毎月行い、定員の参加者で行えた。パパと一緒に参加できるイベントだと好評である。 ・パパが我が子以外の子どもに接したりパパ同士が子育てや家族のことで話し合える。 ・パパと子どもが集いに参加したり、一時預けの利用等、子育て支援の情報をパートナーに知らせる機会になった。	つどいの広場の中で、パパの子育てスキルをアップさせる講座の一つとして取り組み、パパといっしょに遊ぼう等へとつなげていき、パパの交流の機会を増やしていく。	トイコンとらいあんぐるのメンバーとの連携で、おもちゃの広場を開催し、パパ達の子育てスキルをあげていきたい。

双子 三つ子の会	東久留米から参加の双子ママが、東久留米社会福祉協議会の協力を得て、ひがしくるめツインズを発足。保育付きの講座を定期的に開催。清瀬双子の会が、多胎児の子育てサークルを立ち上げる原動力になった。	多胎児を育てた先輩ママが多胎児支援に入り、多胎児の子育てを応援する仕組み創り。	東久留米市の多胎児を育てるパパ達にも呼び掛けて、多胎児のパパのネットワークを拡大していく。
母乳相談 おっぱいママ	母乳育児を促進・支援する「おっぱいママの会」は、会場を中清戸地域センターに移し、第４金曜日の午前中に開催。前年度と同様に参加者は少なく、断乳についての相談・復職後のおっぱいケア・乳腺症後の不安など、個別対応が主だった	・市の産後ケアが始まり個別対応が充足したこと、コロナでの参加控えと、近距離の集いで問題解消ができていることで、参加者が増えない状況だったと思われる。 ・母乳育児は近年、減少している。母乳育児を啓発する必要がある。	身近に母乳相談できる場として、相談場所を下宿つどいの中で継続とする。
ＮＰ講座	保育付きの連続 6 回講座を 2 クール実施。新たに養成講座修了者が 2 名講座運営を経験し、1 名が年度内に認定資格を取得した。	参加者確保。 多くの人が共感できる明確なテーマ設定。	FA 認定審査会に向け他の FA からも FB をもらう。 スキル向上のためフォローアップ講座を企画する。
育み講座	育休中の参加者を念頭に開催している講座で、０歳の子育てに必要なことを共有し仲間づくりを促した。	申し込み前に講座の内容を具体的に知りたい方にとっては、テーマが漠然としており、検討の余地がある。	ニーズに対応した講座を誰が担当し、どのように企画し実施するか明確にする。
CSP 連続講座	“前向きなしつけの講座”として 11 年継続開催。指導者ライセンス更新に加え、“新版”導入。“ほめる”“教える”を通し、親子の絆を強めるスキルを学ぶ。	対象年齢と広報対象者のずれから、必要な方に情報を届けられていない。 指導者の学びの場、時間、研修費の確保。	紹介講座を３回に増やし、幅広い年齢層に届ける。 スタッフへの研修導入を検討する。
CSP 体験	CSP 連続７回講座のダイジェスト版として開催。対象年齢に満たない方、育休中の方、ご興味のある方など幅広い方が参加。	正規セッション連続 7 回に参加が難しい方に、紹介（体験版）講座を定期開催していく。	ご家庭で実践できるスキルの定着を目指す。 スタッフにも団体内研修を開催し考え方を共有する。
親子遊び	・広場事業での紹介、友達を誘っての参加者が多かった。 ・異年齢での参加なので、他児を通して今後の成長をみられたり、参加者同士でアドバイスやヒントをもらう姿もみられた。	・室外へ出る機会を増やし、外階段を使うこともあったが、親子で手を繋いでいても足を踏み外す事故が起きてしまった。	・異年齢であることのメリットを生かし今後の成長過程をしってもらい、それを促す言葉がけのバリエーションを増やすきっかけになる場にする。

すくすく 親子教室	前年度に続き参加者が少なく、1 学期から 3 学期まで連続参加する方が多かった。 従って個々の成長に合わせて対応する余裕もあり、参加者同士の交流も密であった。	連続参加しているうちに慣れてしまい親同士で話しに夢中になり、子供から目が離れ怪我に繋がりそうな場面がみられた。	子も親も集中する時、気を緩めて自由に過ごす時の緩急をつけ、安全で子供の成長を見つける機会を増やす。
すくすく クッキング (外部講師)	旬の食材を使った沢山のレシピと応用方法を教えて頂き、幼少期に必要な食育のお話は特に参加者に好評だった。	コロナウイルス流行の為、現在は作った物を試食なしでお持ち帰り頂いているので、参加者同士のコミュニケーションを取る方法を試食以外で考えていきたい。	乳児以外にも参考になるレシピとお話なので、もう少し参加者の幅を増やしていきたい。
赤ちゃんの 防災講座 (外部講師)	普段から使える防災グッズや災害時に使えるアプリをいくつか紹介して頂き実践の備えができた。先生の経験に基づいたお話はとても参考になり、防災意識が高まった。	スライドとプリントがリンクしていないので、講義内容を後から見直せるように、すべてのスライドを紙かデータで頂きたいとのご意見があったので先生にご相談したい。	講師よりオンラインなどの方法があると、なお多くの方が受講しやすいのではないかとご提案頂いたので考えていきたい。
赤ちゃんの 身体の 発達講座	・運動発達だけでなく、生活リズムの重要性や、身体の発達からみた離乳食の話も、講座に盛り込んだ。 ・6 ヵ月未満の赤ちゃんが同室のため、実際の赤ちゃんの動きをみんなで見て、動きの説明をしながら講座を進行。	・発達を促すような体操を教えてほしかったという感想があった。	・ママたちが身体を動かしながら、赤ちゃんの身体の発達を学ぶ実技中心の講座に変更する
赤ちゃんの 救急講座 (外部講師)	乳児期の救急の知識を家族で共有したいという方が増え、ご夫婦での参加が増えた。色々な救急の場面での対処法を知って頂けた。	コロナウイルスの流行で、心配蘇生や異物除去等、実際に人形を使った練習が出来なかった。	機会があれば心肺蘇生や異物除去の方法を実際に体験したいという参加者からのご要望にも対応できるようしていきたい。
絵本講座	・0 歳ママが多かったので、親子の読み聞かせによる愛着形成を基に、選書や効能についての話を詳しく伝えることができた。 ・親の読書活動の向上という観点からも話をしているが、本講座を通し、「絵本で子育て」センターの絵本講師や、読書活動を支える担い手を目指す方もいて、地域の読書推進の根っこになっているのではと感じている。今年度、絵本講師が更に誕生している。	・0 歳ママ中心の講座になってしまい、他の参加者へのお話が短くなってしまった。	・絵本講師を目指す人を増やす。 ・参加者の交流時間を設け、絵本談議をしていきたい。

＊独自事業

事業名	実施回数	参加者数			従事者数			
		子	親	総数	講師FA	会場係	保育	総数
ママベビ体操	12	71	71	142	12	0	8	20
赤ちゃんカフェふわっとん	41	156	165	321	84	0	0	84
ここのつまでの優しい性教育講座	2	15	14	29	2	2	13	17
事業計	**55**	**242**	**250**	**492**	**98**	**2**	**21**	**121**

ひまわり

事業名	実施回数	参加者数			従事者数			
		子	親	総数	講師FA	会場係	保育	総数
赤ちゃんひろば	20	126	126	252	8	40	2	50
ねんね講座	2	26	26	52	2	4	16	22
育み講座フォローアップ	1	5	6	11	1	0	4	5
不妊治療で授かったママの会	2	11	12	23	2	0	7	9
キラキラ家族交流会	2	7	9	16	0	7	1	8
双子・三つ子同窓会	1	0	6	6	1	0	0	1
ヤングケアラー支援者養成講座	1	0	21	21	1	0	0	1
生活支援者基礎研修	3	0	42	42	3	28	0	31
親子でおいもほり	1	8	8	16	0	2	0	2
木のおもちゃ製作	1	0	11	11	1	10	0	11
新米ママと赤ちゃんの会ファシリテーター養成講座	1	2	3	5	4	0	1	5
事業計	**35**	**185**	**270**	**455**	**23**	**91**	**31**	**145**

ゆいゆい

事業名	実施回数	参加者数			従事者数			
		子	親	総数	講師FA	会場係	保育	総数
ももずきん	4	9	13	22	4	0	0	4
個別抱っこ・おんぶ紐指導	3	5	6	11	3	0	0	3
個別母乳ケア	2	2	2	4	2	0	0	2
時短＆リメイク料理講座	10	44	44	88	10	14	0	24
おんぶクッキング離乳食講座前編	10	40	40	80	20	11	0	31
おんぶクッキング離乳食講座後編	10	48	48	96	20	13	0	33
産後骨盤ケア	5	8	8	16	5	0	0	5
産後ヨガ	7	7	7	14	7	0	0	7
事業計	**51**	**163**	**168**	**331**	**71**	**38**	**0**	**109**

	4 年度成果	次年度への課題	今後の目標
おんぶ de クッキング	・おんぶ初心者のママ達におんぶ紐の紹介や体に優しいおんぶの仕方を伝え、ご自宅でもおんぶをするきっかけになった ・大人の食事からの取り分け方や調理法など、実習時のアドバイスは家庭でも実践しやすいと好評だった。	・対象者をハイハイ前と後に分けて実施。ハイハイ後の赤ちゃんは体重も増え、おんぶでの調理は大変そうだった。	・今年度は実習後、ママたちにゆっくり食事をとって頂けるようにママカフェ ver.に変更し、定期開催する。
清瀬 ももずきん	・「家族参加、パパも絵本」で、子どもの発達に気づきを得られている。 ・年齢相当ではなく発達に合わせた絵本を読んであげた結果、親から非常に喜ばれた。。 ・入室後、おもちゃに夢中にな る子がいたので、少し遊ばせてから読み聞かせしたら、絵本に集中してくれた。	・絵本よりおもちゃになりがちである。 ・中止の月がまだある。	・連休と重なる時は開催日をずらしたので、全開催をめざし、再びももずきんを定着させる。
ここのつまでの優しい性教育講座	・性教育が生殖の性だけでなく人権やジェンダー、愛着、感情など人との関わりについて広く知るという理解から、日頃の子育てや自分自身への気付きになった。 ・保育付きなので、思い切って性の悩みを話せたり、子育ての中でも特に相談しづらい性の悩みを他の参加者とも共有共感できた。 ・ペアワークで行った伝え方の練習、紹介絵本の数・種類を豊富に用意していたのが好評だった。 ・以前ウイズアイを利用していた今は就学児の保護者の利用にもつながった。	・1 週目が土台編 （愛着／同意／ジェンダー／感情） ・2 週目が実践編 （プライベートゾーン、二次性徴、性交妊娠出産の伝え方） という順番。 参加者が聞きたい内容が後半になっているので、前半が伝わりづらいよう。 ・内容が多岐にわたりすぎているので、伝えたい内容をしぼり、参加者に伝わるよう構成を変更する。	対象：０～９歳までの幼児・児童の保護者 ・今までの「恥ずかしい」「汚い」「いやらしい」イメージのあった性教育ではなく、科学的・包括的な性教育の学び直しを行う。 ・愛着や同意など、性の土台となる関係性の学びから日頃の子育てに生かすてもらう。 ・ジェンダー役割としての母親の「べき」を見直すことで『自分らしさ』『その子らしさ』への気づきを促す。 ・幼児・低学年からの「自分の体は自分のもの」という感覚を親子で養うことで性被害・性加害防止を目指す。

赤ちゃんカフェ	・来店された方同士、子育てについてや地域の情報など、お茶を飲みながらゆっくりおしゃべりして頂けた。 ・つどいのひろばや赤ちゃん講座、一時保育等の子育て事業を紹介することができた	・妊婦さんの参加が少ない。	・妊娠中からの切れ目ない支援をするためにも、プレママプレパパに来て頂けるように広報に力をいれる
きらきら家族交流会（医療的ケアと重度心身障がい児の家族交流会）	・体調管理が難しいお子さん達なので、コロナ禍でもあり、広報はせずに今までの参加者を対象に実施した。３回の予定だったが、体調不良で欠席もあり、１回は中止。おしゃべり会とクリスマス会の２回実施した ・クリスマス会では、バルーンアートや弦楽器演奏、参加者によるトーンチャイム演奏等、楽しんで頂けた。	・当初は未就学児を対象としていたが、開催初年度より参加のお子さんの半数が小学生となり、対象者も含め、内容や実施回数など、今後の方針について検討する必要がある。 ・医療ケアが必要なお子さんの参加もあり、安全に開催するために、協力して頂ける看護師の確保が必要。	・今年度は参加者を募り、新規のメンバーを増やしたい
睡眠講座(外部講師)	・ネットで色々な情報が得られる中、どの知識が正しいのか、個々に応じ、直接教えて頂けた点が参加者から好評だった。 ・赤ちゃんの睡眠や夜泣きに悩む保護者の方は多く、生活リズムの大切さや睡眠環境についてお話頂いた。 ・子育て中のママが講師のため、ご自身の経験談などお話頂き、内容が具体的でわかりやすいと好評だった。	参加者よりその時々のお子様の年齢・月齢のねんねの特徴や具体例についいて、もっと詳しく知りたいとの要望があった。	年齢・月齢別に細かく分けた講座を開催できるよう検討したい。 ・赤ちゃん期間は日々、授乳、離乳食、お昼寝のタイミングが変化するため、ママたちの悩みはつきない。参加者のお子さんの月齢に応じて内容をどうするかを講師と相談していく

（５）赤ちゃんのチカラプロジェクト事業

令和４年度成果	次年度への課題	今年度の目標
受託９年目、市内小学校９校で、各学級 2 時間のプロジェクトを実施。0 歳親子との交流は会議システムで「赤ちゃんひろば（つどいのひろば内 0 歳児企画）」を生中継した。 学校との連携を密に、性教育との違いを明確にした上で児童の対応を共有できた。	スタッフが学校で行われている各学年の内容の把握することと、それに応じた対応をする。 コロナ禍で参観が中止となっている場合が多く、保護者の皆さんに広く知っていただく機会が少ない。	全校５年生への移行を令和６年度に完了するため、一部の学校で２学年開催を実施する。 学年の相違による学びの進度、学校との連携による児童への対応をより一層強める。 保護者への情報提供に注力する。

２）　補助事業　一時保育事業・24 時間緊急一時保育事業

あ　い　あ　い

令和４年度あいあい一時保育実績

	令和４年度	前年度
実利用者数	370	358
延べ利用者数	4238	4151
（うち土日祝）	1015	831
登録件数	325	164
相談件数		320

月別統計

	うち初回人数	一時保育	月計	平日				計	土日祝				計
				うち時間外		計	うち緊急		うち時間外		計	うち緊急	
				9時前	17時以降				9時前	17時以降			
４月	117	334	334	24	48	72	0	238	20	48	61	0	96
５月	24	351	351	27	49	74	0	237	28	63	77	0	114
６月	40	387	387	28	75	99	8	294	14	44	57	3	93
７月	36	354	354	33	47	70	2	262	20	42	57	0	92
８月	17	225	225	18	31	44	6	160	12	31	36	0	65
９月	13	356	356	25	37	56	2	271	11	34	38	3	85
10 月	31	377	377	33	36	55	6	283	12	38	48	4	94
11 月	27	375	375	31	28	55	1	275	19	37	45	0	100
12 月	19	390	390	25	30	50	9	318	11	39	41	3	72
１月	11	336	336	25	20	43	7	275	9	31	35	4	61
２月	9	337	337	22	26	44	0	269	10	27	34	0	68
３月	26	416	416	34	42	71	9	341	16	28	39	1	75
総計	**370**	**4238**	**4238**	**325**	**469**	**733**	**50**	**3223**	**182**	**462**	**568**	**18**	**1015**

あいあい　4238 人のうち

緊急一時預かり対象児童　　令和４年度　79 人　　令和３年度 53 人

特別支援児童対象児童

令和４年度　障がい児　303 人　　令和　３年度　障がい児　373 人

令和４年度　多胎児　217 人　　令和　３年度　多胎児　376 人

年齢・理由別統計　あいあい（平日／土・日・祝日）

①　平日

年齢／保育理由	0 歳	1 歳	2 歳	3 歳	4 歳	5 歳以上	計
仕事	112	218	454	216	14	130	**1144**
育児疲れ	233	202	496	115	33	55	**1134**
その他	59	188	445	117	24	112	**945**
総計	**404**	**608**	**1395**	**448**	**71**	**297**	**3223**

②　土・日・祝日

年齢／保育理由	0 歳	1 歳	2 歳	3 歳	4 歳	5 歳以上	計
仕事	11	95	122	59	101	121	**509**
育児疲れ	47	49	52	40	49	22	**259**
その他	11	31	31	40	61	73	**247**
総計	**69**	**175**	**205**	**139**	**211**	**216**	**1015**

③　合計（平日及び土・日・祝日）

年齢／保育理由	0 歳	1 歳	2 歳	3 歳	4 歳	5 歳以上	計
仕事	123	313	576	275	115	251	**1653**
育児疲れ	280	251	548	155	82	77	**1393**
その他	70	219	476	157	85	185	**1192**
総計	**473**	**783**	**1600**	**587**	**282**	**513**	**4238**

あいあいプレイルーム
（ひよこ）

4 年度成果	次年度への課題	今後の目標
・ルーティンを定めたことで、スムーズに生活出来るようになった。 リーダーへの注目ができるようになり、集団としてまとまりが出来た。 ・あひる組と一緒に部屋の遊びや散歩に行けた事で連携が取りやすく他児を気にする事なく気になる子に行けたりあひるの子達に刺激を受け遊びが広がったこともあった。	帰りのお迎え時の対応時間確保。 日誌や制作物の準備時間の確保。 話し合いの時間の確保。 この 3 点を来年度は作れるようにしていきたい。	

（あひる）

4 年度成果	次年度への課題	今後の目標
・小集団での生活を通してコミュニケーション力や社会性の発達が見られた。 ・入所前は育児や我が子との生活に不安を感じていた保護者から、プレイルームに通う中で気持ちが前向きになり、育児が楽しくなったとの感想を頂いた。 ・1，2 歳児の合同保育により、子ども同士が良い影響を与え合い、環境を通して自立、成長できた。大人も年齢や月例に捉われず、子どもの発達や興味を見つめるきっかけとなった。 ・質の良い玩具や木製棚を導入することができ、保育室内環境を大幅に改善することができた。	・途中入所や、週１回の子が数人いたため、日課のペースを作りにくい場面があった。 ・近所の公園が、季節によっては蚊やカラスの発生・管理が不十分で安全に遊べない ・遊びに行く先の場所の確保 ・プレイルームの保育室をつどいの広場でも使用しているが、それを梅園つどいの広場の強みにしていかれないか？ ―例えば発達に沿った質の良い玩具や 子どもの遊びや生活に適した室内環境を、広場に来た保護者に知ってもらえるような情報発信など。	（あいあいプレイルーム全体） ・乳児期から自由な表現活動や感触遊びを取り入れる。 ・0 歳児保育のカタチづくり。 ・保育計画の書面化、保育の方向性や子ども理解を共有する。 ・プレイルームの保育ドキュメンテーション化の検討。 ・ウイズアイの様々な拠点、活動をしているスタッフとの情報共有。 ・絵本、わらべうた、製作、音楽や表現活動、環境設定などを共有したり学び合うシステム作り。

あいあい一時保育

4 年度成果	次年度への課題	今後の目標
・一時保育利用から次年度のプレイルーム利用へ繋がった。 ・コロナ禍が落ち着き、学校・幼稚園行事等で、同じ日に重なる利用が増えたが丁寧に対応できた。 ・床のマットを張り替えて汚れが見えやすくなり衛生的で明るい部屋作りができスペースも広く感じられる環境ができた。 ・産前産後の上のお子さんの送迎付き保育や養育家庭のお子さんの保育等急な依頼も臨機応変に対応して保護者の方に喜ばれた。 ・保育園に入れなかったお子さんを保育園一時保育料金と同額にすることで定期預かりに繋がり保護者の方とスタッフでお子さんの成長を一緒に喜ぶことができた。 ・予約が混み合う時は定員以上をキャンセル待ちとし別紙に情報を書き、受け入れができる時は早め早めに連絡し一人でも多くのお子さんを預かれるように心がけた。	・日祭日、早朝、深夜、宿泊等の対応スタッフに限りがあり、できるスタッフに荷重がかかった ・予約漏れのミスがあり、確実に安心して受けられるようにしていく為の手立てを考えたい。 ・荷物等返却し忘れが多くあった ・24 時間 365 日対応のため利用者やスタッフの出入りも多く、衛生管理、美化整理整頓の保持が大変である。	・お子さんを預ける不安を最小限にするために、個人登録時に、お子さんの普段の様子や、親御さんがどんな関わりをしているかを丁寧に聞く。 ・お子さんの素敵なところや頑張った様子を伝えて帰す・・、丁寧にお子さんを観察し、お子さんの好きな事をみつけ、一緒に関わる時間を大切にする。 ・日曜日や祝日の利用は、幼児や小学生も入り、年齢に幅があり、小学生にも遊べるおもちゃやボードゲーム等の導入も考えていく。 スタッフでより遊びを充実していくための研修を行い学ぶ時間を作っていく

ひ　ま　わ　り

	うち初回人数	いきいき事業	独自事業	**一時保育**	**月計**
4月	39	3	0	196	199
5月	11	10	0	172	182
6月	12	6	0	238	244
7月	15	5	16	213	234
8月	2	0	0	192	192
9月	7	21	0	215	236
10月	5	20	0	231	251
11月	6	18	0	226	244
12月	8	0	0	203	203
1月	14	0	0	230	230
2月	11	13	16	245	274
3月	13	11	10	301	322
総計	**143**	**107**	**42**	**2662**	**2811**

令和4年度ひまわり一時保育実績（市内外）

ひまわり 2811　人のうち

緊急一時預かり対象児童　　令和4年　88人　　令和3年25人

特別支援児童対象児童

障がい児　令和4年　262人　　令和3年248人

多胎児　　令和4年　20人　　令和3年　0人

年齢・理由別統計

年齢 / 保育理由	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	計
仕事	27	122	260	53	4	24	**490**
育児疲れ	85	268	269	115	5	24	**766**
その他	202	394	714	202	17	26	**1555**
総計	**314**	**784**	**1243**	**370**	**26**	**74**	**2811**

ひまわりプレイルーム

（けやき）

令和4年度成果	次年度への課題	今後の目標
支援が必要なお子さんへ支援計画を立て、保育士同士連携をとりながら保育ができ、日々の成長や家庭での様子を共有することができた。一人一人の個性を大切にしながら関わっ	さくら組へ継続はせずに、幼稚園のプレや継続しても満3歳児クラスに行くまで通所する家庭が多い。	幼稚園のプレという大きな集団で困ることなく生活できるのかどうか、ひまわりプレイルームでの丁寧な関わりが必要である。一人一人の様子に

たことで、保育士との信頼関係を築くことができた。後半は対大人から、友だちと一緒に遊ぶ楽しさへと広がり、集団遊びを楽しむ姿が多くなった。		応じて、保護者と連携を取り、進路を考えたり相談できる場となる必要がある。

（さくら）

令和４年度成果	次年度への課題	今後の目標
日々のルーティンを分かりやすく伝えたり、顔写真を用いて他児にも興味が出るような働きかけを心掛け、発語が不明瞭で衝動的だった子が他児を見て行動出来たり、自分の気持ちを伝えられるくらいまでの成長がみられた。人数は少なくなったが、その分手厚く保育ができた。また、散歩も少し遠くへ足をのばし、そこで体を十分に使って遊ぶこともできた。	課題としてはあまりにも人数が少ない日もあり、小集団とは呼べない状況だったので、人数の確保や、その都度携わるスタッフの不安定さがあげられる。ひとりひとり子どもの性格によって手厚い保育を希望して、選んでくれる保護者もいるので、引き続きプレイルームの周知が必要といえる。	（ひまわりプレイルーム全体） 目標としては、安全に事故なくはもちろんのこと、保育士同士のクラス方針や、気になる子への対応の共通認識の共有。また、子ども自身が自分の体の使い方を知る上でも大人の必要最低限の介助法などの研修（上木原さん）を受けると良いなと感じる。その他、認可外保育施設等利用支援支援制度を周知する

ひまわり一時保育

４年度成果	次年度への課題	今後の目標
・利用時間８：30～17：30 が広く定着したことにより、在宅主婦の育児不安の軽減や就労、スキルアップ等様々な理由の方に貢献できた。 ・一時保育利用者から次年度のプレイルーム利用者へ繋がった。 ・市外からの依頼も丁寧に対応し、希望する保育にそえる様にスタッフで協力し合った。 ・何度も利用される子ども達になるべく同じスタッフが対応出来るよう調整し、１年を通じて子ども達の成長を保護者と喜ぶことが出来た。 ・急な保育依頼も臨機応変に対応し、断ることなく安全に事故なく保育が出来た。 ・床のマットを張り替え、衛生的で明るいお部屋作りが出来た。	【保育者手配について】 ・一度に沢山の予約を入れて行かれる利用者が、予約を忘れて来ない事が多かった ・子どもを預ける際、予約時間と保育カードの時間が違っている場合が何度かあった。 【環境整備について】 ・館内は人の出入りが多く、保育室の前まで入ってきたりしてしまう人がいた。 ・元気なお子さんが廊下に飛び出してしまいそうになる事があった。	【保育者手配について】 ・複数日予約が入っている利用者には必ず次回の予約日と時間を確認する。 ・保育の予約時間と保育カードを確認する。 【環境整備について】 ・入口にローゲージを付ける等工夫していく 【その他】 ・より良い保育、家庭支援が出来るよう利用者への声かけを増やし、細かい現状把握が出来るようにする。 ・前年度と同様、子どもの成長を保護者と喜び、安心・安全・事故のない保育を行いたい。

下　宿　ど　ん　ぐ　り

令和４年度どんぐり一時保育実績

	令和４年度	前年度
実利用者数	73	75
延べ利用者数	672	402
登録件数	86	17

どんぐり

緊急一時預かり対象児童　　０人

特別支援児童対象児童

障がい児　５人　　多胎児　２人

月別統計

	市内・市外預かり件数	
	実人数	一時保育
４月	21	46
５月	8	33
６月	7	53
７月	5	55
８月	4	45
９月	2	38
10 月	2	45
11 月	0	38
12 月	7	54
１月	5	53
２月	5	91
３月	7	121
総計	**73**	**672**

年齢・理由別統計

年齢／保育理由	０歳	１歳	２歳	３歳	４歳	５歳以上	計
仕事	28	44	29	8	2	7	**118**
育児疲れ	13	97	191	1	0	4	**306**
その他	28	110	57	32	10	11	**248**
総計	**69**	**251**	**277**	**41**	**12**	**22**	**672**

どんぐりルーム一時保育

４年度成果	次年度への課題	今後の目標
・少人数の為、個々に合わせた対応ができた。 ・つどいの広場の利用者が、どんぐりルームを知り、すぐに見学できる事で徐々に利用者が増えた。 ・午後起きている子は、つどいの広場で安心安全に楽しく遊び過ごせた。 ・今年度は定期を設けなかったが、秋から決まった曜日に利用する方が増え、回を重ねるごとに仲間意識も深まり、楽しく遊び過ごすことが出来た。	・保育児が増えた時、保育士やスタッフが休みの時の保育者の補充の確保 ・緊急の場合の受け入れ方法	・初めての方が利用しやすいような工夫の提案 ・下宿市民センター利用の方の保育場所として利用しやすいように働きかけていく

３）助成事業

独立行政法人 福祉医療機構　社会福祉振興助成事業

WAM 助成　令和３年度補正予算事業（令和４年度実施）

※詳細は別冊の事業報告書をご参照ください。

【総事業費】7,922,945 円　　助成額 7,000,000 円

【事業名】　若者の社会的孤立を防ぎ、地域の大人が連携して見守る自立応援事業

柱立て 1：相談支援の充実【既存事業の拡充】
(月)(火)(木)9：30-15：00 小中学生不登校および若者の居場所として開所 開所日数：133 日　利用者数：のべ 300 人 問合せ：14 件　見学・来客：20 人　他施設訪問：117 人（配布等含む） 登校支援：48 件（送 27 迎 21）　送迎：50 件（送 31 迎 19）　外出：36 回　保護者面談：11 回 学生ボランティアによる　活動：11 回　見学・研修：5 回
柱立て 2：10 代、20 代の自立応援事業【既存事業の拡充】
【住居確保・食の確保・権利擁護・就労支援・生活支援】＜対応総数　148 件＞ 宿泊利用：23 回　就労支援：40 回　同行支援：23 回　＊登校支援、送迎は含まず SOS、相談対応：50 回　医療機関・行政とのケース会議：7 回　アウトリーチ、訪問：5 件
柱立て 3：児童養護施設を退所後の母子のネットワークづくり【新たな取り組み】
隔月奇数月　年間実施 5 回　参加のべ：14 人　保育児：10 人
柱立て 4：地域における包括的支援体制の推進【既存の取り組み】
（1）-1　事例検討会（支援計画会議）：18 回（2 ケース/回）のべ 108 人 （1）-2　ミーティング：10 回のべ 60 人（1）-3　勉強会：10 回　のべ 30 人 （2）-1　親の会：10 回　のべ 32 人（実数 10） （2）-2　親父の会：4 回　のべ 10 人（お父さん）（実数 4）　イベント参加の合計　33 人 （3）-1　支援者連絡会：6 回　参加 6 団体　のべ 57 人参加（実数新規 10） （3）-2　不登校を考える 3 回シリーズ講演会 第 1 回　「当事者の話を聞く会」26 人 第 2 回　講演会「不登校臨床の再構築を目指して」34 人 第 3 回　シンポジウム「地域で支えるために」45 人　　合計 105 人

【成果】

「つなげる支援」をテーマに掲げることで、スタッフが目的を明確に持ち共有することができた。
保護者との関係構築を大切にし、地域の連携を密にすることに務め、より多くの選択肢を提供できた。
特に本年度は、広報誌の配布を「ご家庭」⇒「学校教職員全員」にすることで、教職員への周知が進み、紹介につながった。地域連携の一つとして「支援者連絡会」を立ち上げ、また多くの方が参加できる学びの場として、3 回シリーズ講演会を開催した。

【課題】

学校に行くことをゴールとしない、過ごせる「居場所」が求められる中、ウイズアイの居場所の継続的な運営を、人的物的支援の確保と地域連携から可能にするシステム構築を実現する。

キユーピーみらいたまご財団助成プログラムA「食育活動」

【総事業費】1,722,657 円　　助成額 1,000,000 円

【事業名】 多様化する子育て家庭の生活支援　～食を通しての応援事業～

【事業の柱立て】

柱立て１　ママの家事力アップ「クッキング講座」

・自らの困難に寄り添い、引きこもりがちな母親を対象に、家事力を高めるクッキング講座の定期開催。
　ファシリテーターが入り、同じ悩みを抱える方同士の交流の場を作り、ネットワークを構築する。

柱立て２　若者の自立応援「食育講座」

・様々な困難に直面している若者の自立を目的に、生活の基本となるバランスの良い食事や家庭料理を学ぶ講座を定期開催する。ヤングケアラー同士の交流を促進し、ピアサポーター育成の足掛かりとする。

【成果】

１）病気や精神疾患を抱え、子育て中の方　ママの家事力アップクッキング講座

※目標：実施回数 24 回延べ 96 人　　【実績】　27 回，延べ 57 人：回数 113%，人数 59%

●何らかの疾患を持ちながら子育てに奮闘しておられるママ達が、料理を通じて交流を図れたことは、今後の子育てにも大いに役立つ。特にファシリテーターが入り、お互いの状況・環境を知っていく中で、相互理解を深め、自助グループ育成に寄与できたと思う。今後は、子ども同士の交流を図る場をつくり、ヤングケアラー及び予備軍のピアサポーター育成に繋げたい。

●各ご家庭での家事負担の軽減を図るため、実習したおかずはお持ち帰りいただくよう配慮した。メニュー構成は家庭料理２品（主菜・副菜）を基本とした。

●精神疾患をお持ちの方々にとって、指定の日時に来所することは並大抵のことではなく、日頃の暮らしにくさに触れたように思う。そのような状況下、参加して下さった方々に感謝すると共に、今後も同じ地域で生活する者として、寄り添っていきたいと強く思う。

２）ヤングケアラー、ケアリーバー　若者の自立応援 食育講座　１回/月×12 か月

※目標：実施回数 12 回，延べ 48 人　　【実績】　25 回，延べ 94 人：回数 208%，人数 288%

○ヤングケアラー/中高生 12 回 25 人（対象比 26.6%），小学生 7 回 50 人（対象比 53.2%）

○ヤングケアラー予備軍/未就学児 6 回 19 人（対象比 20.2%）

●少人数ながら、継続して同じ顔触れが集まることで、同世代での交流が増えたことをとても嬉しく思う。自宅に引きこもりがちだった高校生が同世代と料理する機会を持ったことで、定期的に外に出られるようになり、ボランティア大学生と「若者の居場所」に通えるようになった。

●料理を作りながらコミュニケーションを図る中で、ご家族のことや進路の悩み、アルバイト生活の不安などを話してくれる高校生に対し、早期に必要な支援に繋げるなど、課題解決に向かえうことができた。

●児童養護施設で生活する高校生が複数参加し、楽しそうに取り組む姿が印象に残る。また中学時代から「お菓子作りの会」に参加していた現高校生が、お菓子コンテスト(日清製粉主催)に出場し、高評価を得ることができ、喜びを分かち合えた。

●ヤングケアラー予備軍と考えられる未就学児～小学校低学年を対象に「おやつ作り」を行い、料理の楽しさ・面白さに触れる場を設けた。近い将来、各々が関わる家事(特に料理)を少しでも「プラスの意識」で取り組める"お手伝い"になるよう、心から願っている。

【課題】

・本事業について、他の講座に参加した際にスタッフに勧められた参加者も多かったことから、他事業に関わるスタッフへの周知を図り、情報共有の場を持ち、今後の参加者拡大を目指したい。

・『家庭で料理を学んでこなかった』と認識しておられる方々は、特に料理に対する苦手意識を持っており、自信の無さが離乳食の実践に大きく関与していると感じた。コロナ禍を踏まえ、安心して参加できる食育講座を模索し、多様化するニーズに応えていきたい。

東京都子供の食の確保 交付金（対象：ひとり親家庭）

【総事業費】414,087 円　　補助対象額 317,000 円　　収入実績額 40,400 円

【実績】

・実施回数 24 回、延べ 285 件（0 歳～17 歳の児童 延べ 142 人、児童の保護者 延べ 69 人、他 74 人）

・宅配人数 延べ 127 人（0 歳～17 歳の児童 延べ 81 人、児童の保護者 延べ 46 人）

【成果】

・開始から 5 年目となり、当初より一貫して、親子共に安心して食事が出来る場、食事作りの負担感を軽減し、日頃の疲れを癒す場の提供が出来たと思料する。また、コロナにより中断していた学生ボランティアか復活した。

【課題】

・初期から利用されているお子さんの成長に伴って利用頻度が減る等、利用者の世代交代が進みつつある。新規利用者の掘り起こしが必要である。

・お子さんの多い利用者にとっては、利用料が負担になるとも考えられる。

【目標】

・ヤングケアラーの担い手や、シングルファザーのご家庭等にもアンテナを張り新規利用者を増やす。

・利用料を「1 家庭 1 コイン」とし、より利用しやすい食堂を目指す。

清瀬市対象児童等見守り強化事業

【総事業費】11,438,475 円　助成額 9,723,000 円

【事業名】 地域のネットワークと団体内部を横断した取り組み

【事業の柱立て】

柱立て１：子ども等の状況の把握

柱立て２：食事の提供（配達等を含む）

柱立て３：基本的な生活習慣の習得支援や生活指導

柱立て４：学習習慣の定着等の学習支援

【実績】

・あいあい一時保育　65 世帯（実数 102 人、延べ 1298 人）、お泊り保育 7 泊

・あいあい送迎（実数 22 人、延べ 225 人）

・あいあい食事（実数 14 人、延べ 203 人）

・りんりん母子シェルター　3 世帯（実数 13 人、延べ 254 人）、延べ 254 日

・緊急一時保育件数（あいあい：79 件、ひまわり：84 件）

【成果】

・専任スタッフを配置し、団体が運営する 3 拠点の一時保育事業、つどいのひろば事業、不登校の子どもの居場所事業など、多方面からアプローチ可能な体制を整え、乳児から若年層まで見守る機会の減少抑止

を図った。

・養育支援ヘルパー事業と連動し、母親の体調不良や病気の時、また妊娠・出産時の一時保育のニーズが増加した。特に新生児から一時預かりが可能なため、母子の課題を早期に発見・介入することが可能となった。

・土日祝、時間外の一時保育利用者が増加傾向にある。その理由の 60%以上は仕事のためであり、親御さんの多様な働き方に対応できたと考える。

・夫からの精神的及び肉体的暴力から逃げ、生活のやり直しを望む母親(または母子)のため、安全安心に過ごせる場を提供し、生活及び相談支援を行うことができた。

【課題】

・資金の確保。今後は民間助成金などの申請を視野に入れ、事業の継続を図りたい。

令和４年度東京都ヤングケアラー相談支援等補助事業

【総事業費】 9,754,697 円　　補助額 9,152,000 円

【事業名】 ヤングケアラーに寄り添う伴走型支援　一人じゃないよ。そんなに頑張らなくていいんだよ

柱立て１　ピアサポート等相談支援事業

柱立て２　生活支援ヘルパーの派遣事業・

【実績】

１）子どもの居場所やシングル家庭の親子食堂(当団体主催)を活用した相談支援

※令和４年８月～令和５年３月　毎月第１・第３（土）　８か月×月２回＝１６回　相談件数 20 件

２）電話・Ｌｉｎｅを活用した 24 時間相談支援　※随時対応

３）専任コーディネーターによる定期的なアウトリーチ

※月４回×３か月(10 月-12 月)＝12 回，月８回×３か月(1 月-3 月)＝24 回　※12＋24＝36 回

※お惣菜の宅配サービスを活用した訪問　延べ２９回，対象家庭実数２８世帯，延べ 212 件

４）「ヤングケアラーの理解と支援の在り方を深める講演会」の開催　　※２回

※一般社団法人ケアラーアクションネットワーク協会　代表 持田 恭子氏

「家族のケアをする子どもや若者たち、ヤングケアラーを知っていますか？」　参加者数：延べ 55 名

※令和５年２月１８日（土）　精神疾患を持つ親の会 こどもぴあ　代表 坂本 拓氏，小林 鮎奈氏

「精神疾患の親を持つ子どもの立場から見えたもの」　参加者数：延べ 28 人

５）ピアサポーターの発掘・育成を目的とした自助グループの育成、ネットワークづくり

※『子どもらしい子ども時代・楽しい学生時代を送りたかったママの会』

※年間３回：目標参加人数　延べ 12 名　実績 11 名　⇒　ピアサポーター発掘目標：３名 実績３名

６）ヤングケアラーのレスパイトを目的とした宿泊（お泊り事業）　※３世帯　実数３名　延べ７回

７）家事支援ヘルパーの派遣事業（通院時の同行支援６件を含む）

※家事・生活支援ヘルパーの派遣実績　実数５世帯、延べ 46 件、ヘルパー延べ（10 人）

８）人材育成研修の開催（１２月、１月）　※「訪問支援者基礎研修」　参加者：延べ 77 人

（内訳）第１回：令和４年 12 月５日（月）、12 月 12 日（月）　参加者：延べ 38 人

第２回：令和５年１月 16 日（月）、１月 23 日（月）、１月 31 日（火）　参加者：延べ 39 人

9）生活支援訪問ヘルパー　研修（振り返り及び事例検討，次年度に向けた取り組み）
※参加者：延べ 30 人　　第１回（3/23）参加者：14 人　，第２回（3/31）参加者：16 人

【成果】
・生活している地域で、繋がりのある大人に気軽に相談できたことは、子ども達にとって大変心強く、速やかな支援に繋げることができた。
・関わった子ども達は、本事業における多世代交流や地域の繋がりの心地よさを実感するとともに、これまでの消化されなかった思いの払拭にも効果があったと考える。特に、対象の高校生が中学生をフォローする姿も見受けられ、ピアサポーター育成の一助となった。
・家事支援ヘルパーの派遣については、生活する地域で人材を育成することは、各家庭の急な困りごとや多様化するニーズに細やかに応え、生活する地域の支援者は細やかな対応が期待できる。

【課題】
・ピアサポーターの自助グループ育成については、当団体通信紙「あいあい通信」及び SNS による広報を行ったが、集客が厳しく、自助グループの育成には至らなかった。次年度は周知・広報を工夫し、自助グループを育成したい。
・不登校の子どもが多く、子どもの情報を学校と共有し、子どもの居場所を広げる取り組みも行いたい。
・家事支援は子どもの負担軽減となっており、家事の技術を子どもへ伝達する機会になっている反面、依存心を助長しているのではないか？という懸念もある。